

語らぬ神と珍問答

かせだうり

五穀豊穡を願う正月の伝統行事「かせだうり」が14日の夜、市内5地区で行われました。薄谷地区では、顔を黒く塗った地元の壮年会員らが福の神にふんして、地区内を訪問。手づくりのプラントーや日用品などを身振り手振りで高く売りつけようとすると福の神と、煮しめや酒などを振る舞い少しでも値切ろうとする家人との間で、ユ一モラスなやり取りが繰り広げられていました。同地区の壮年会長の高橋政治さんは「楽しみにしている人がいる限りは続けていきたい」と笑顔で話していました。



上位入賞を目指して力走

高崎クロスカントリー大会

体力向上と健康増進を目的とした高崎クロスカントリー大会が1月22日、高崎総合公園多目的広場で開催されました。12回目の今年は、親子の部や3キロの行程で競うスーパーハードの部など12種目に市内外から約300人が出場。参加者らは起伏に富んだ難コースに悪戦苦闘しながらも、家族らの声援に励んで懸命に走っていました。初めて親子の部に参加した南頭拓ちゃん（高崎町）は「1位になれてうれし。来年は、1年生の部で優勝したい」と次の目標への意気込みを見せていました。



生涯現役、生涯元気

生涯学習フェスティバル

日ごろの生涯学習の成果を披露する生涯学習フェスティバルが1月26日、29日の期間、ウエルネス交流プラザで開催されました。会場には20の教室の生徒による書道やパッチワーク、手芸などの力作がずらり。来場者らはその出来栄えに感心していました。また、ムジカホールで開催されたステージイベントでは、三味線や日本舞踊、フラダンスなどさまざまな団体が会場を沸かせていました。梅ヶ谷幸子さん（関之尾町）は「書道を始めたばかりです。みんな上手です」と感心しきりでした。



地域の財産はみんなの力で守る！

興玉神社防火訓練

地域の文化財を火災から守ろうと安久町の興玉神社で2月5日、防火訓練が行われました。同神社の「内神殿」が国の重要文化財に指定されていることから、文化財防火デーに合わせて訓練を実施。地元住民が組織した自衛消防隊と消防団員ら約40人が参加した訓練では、火元に見立てた発煙筒から煙が出ると「火事だ」の合図で訓練が始まり、鎮火までの手順を確かめていました。吉田敏博さんは「先人より引き継いだ文化財を、地域一丸となって守っていきたい」と気持ちを引き締めていました。



タスキでつなぐ仲間との絆

南九州駅伝競走大会

新燃岳噴火の影響で昨年中止となり、2年ぶりの開催となった南九州駅伝競走大会が2月5日、えびの市から都城市までの7区間で66回目の開催となる大会に、県内外から46チームが参加。健脚を競う選手らに、沿道からは温かい声援が送られていました。アンカーを走る家族の応援に駆けつけた原口美由紀さん（高城町）は「今年は無事に開催され応援にも力が入りました。ランナーの熱気を感じ、今年はいい年になるような気がします」と話していました。



ふるさとの魅力再発見!

ふれあい健康ウォーキングin祝吉

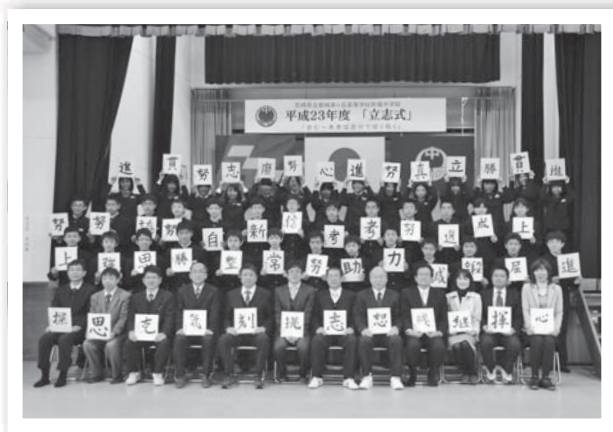
祝吉地区公民館を発着とするふれあい健康ウォーキングin祝吉が2月12日、7キロと3キロのコースで開催されました。祝吉地区のみんなが楽しめて、温かみのあるイベントを作ろうと祝吉地区まちづくり協議会が初めて企画。地区内外から集まった250人の参加者からは、郡元稻荷神社や祝吉御所跡など地区内の名所や旧跡を巡るコースを楽しんでいました。母親と参加した白井駿平ちゃん（5歳）は「あまり歩いたことのない道をお母さんと一緒に歩けたので楽しかった」と元気に話していました。



君、十有五にして何志す?

泉ヶ丘高等学校附属中学校立志式

昔の元服に倣って15歳という大人へ向かう時期に自らの志を立てる立志式が2月13日、泉ヶ丘高等学校附属中学校で開催されました。式に先立ち東国原前宮崎県知事が自身の経験をユーモアを交え講演。生徒らに「前を向いて輝く人生を送ってほしい」とエールを送りました。立志式では生徒一人一人が壇上に立ち、思いを込めた漢字一字を書いた色紙を手に決意を発表しました。築福和希君は「15歳という節目を迎え、責任感を持って自らを向上させていきたい」と決意を新たにしていました。



サッカーの魅力伝える

FC東京サッカークリニック

今年で5回目となるFC東京の都城キャンプが、2月17日から24日の日程で高城運動公園多目的広場で行われました。18日にはサッカーの楽しさを伝えようと、市内の小学3・4年生160人を招いてサッカークリニックを開催。コーチ陣だけでなく、ランコポピッチ監督以下、石川選手や平山選手など選手30人も参加して、実践的なミニゲームが行われました。練習後には、選手たちから「しっかりと練習して、Jリーグのピッチで会えることを心待ちにしています」とエールが送られました。



人の風景



ハラバコア市日本人協会より贈られた感謝の盾



JICAボランティアとして
ドミニカ共和国で日系日本語学校教師を務めた

ひじおか
安枝さん

平 和で豊かな世界の実現を目指して、開発途上国を支援している(独)国際協力機構(JICA)。その活動に日系移民の日本語学校教師として参加し、2年半の任期を終えて12月に帰国したのが肱岡安枝さん(吉尾町)です。

肱岡さんは、中米のドミニカ共和国ハラバコア市とラベガ市を中心とする地域に第7代目の派遣教師として赴任。ドミニカ共和国は昭和30年代に移民政策で日本人が渡った最後の土地で、鹿児島県出身者を中心に約2,000人が暮らしています。祖父母が鹿児島弁を話すこの地でも世代交代が進み、3世に当たる子どもたちが祖父母の生まれ育った日本の伝統や文化を継承する目的で、日本語教育が必要とされています。

肱岡さんがボランティアに参加したのは、社会科教師を目指して

いた大学生の時に、支援が必要な国や地域の存在を知り、いつかは貢献したいとの思いからでした。「日本語だけでなく伝統や文化を教える重要な役割ではあったが、自分が学ぶことも多く、成長できた」と当時を振り返る肱岡さん。帰国後は、外務大臣から海外ボランティア活動に尽力し、友好と親善に貢献したことが評価され、感謝状を贈られました。

肱岡さんは学習教室「まなびや」を主催。幼児から高校生、一般人を対象に、英会話や国語、算数など5教科を教えています。「外から日本を見たことで、日本文化の素晴らしさを再認識した。子どもたちには勉強はもちろん、日本の歴史や文化を自分の言葉で正しく伝えられる大人になってもらいたい」と後進の指導に対しても熱い思いを語っていました。

ジオパーク発掘調査隊

最終回

ほくの名前はキリッ子だよ!

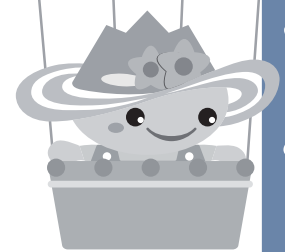


◎問い合わせ

経営戦略課

☎ 23-2115

霧島ジオパーク
Kirishima Geopark



今月は、えびの市大字大河平にある「毘沙門の滝」を紹介します。

毘沙門の滝

加久藤カルデラは、今から約34万年前に起きた破局的噴火により生まれたといわれています。この噴火の際には大規模な火砕流が発生し、付近一帯を火山噴出物が埋め尽くしました。火山灰などの噴出物が、自らの熱と重みでガラス質成分が溶け、強固に再結合してできた岩が溶結凝灰岩です。毘沙門の滝は、溶結凝灰岩を川が浸食してきたものです。

毘沙門の滝には、鉄山川が流れ込んでいます。この鉄山川は、川内川の支流で、水源は約7^{キロ}上流の熊本県境にあります。えびの市大河平の永野原と柵野原の間を流れる溪谷を形づくり、清流は、時によって7色に変化するといわれ



毘沙門の滝の上の溪谷



毘沙門の滝

ています。

滝の上の溪谷には、自然林の中に約1^{キロ}におよぶ遊歩道が整備されています。溪谷には、夫婦岩や毘沙門の石といわれる岩などが重なり合い、ミニ高千穂峡ともいわれています。毘沙門の滝は、延宝年代（1670年頃）に毘沙門寺があつたことに由来します。

毘沙門の滝には、小林市方面から国道221号をえびの市へ。えびの市に入ってから2つ目の信号機を右折し、クルソン峠（標識あり）へ向かいます。約1・5^{キロ}進んだ左手にガソリンスタンドがあります。そこを左折して約1^{キロ}です（駐車場、標識あり）。

韓国岳

韓国岳は霧島山の北西部に位置し、標高1700^{メートル}と霧島山の中で最高峰の山です。約1万7千年前に山体が出来上がった後、火口北西部で激しい水蒸気噴火により火口の一部が吹き飛ばされて現在の形になりました。火口の断面を見ると、斜面に沿ったくさび型の岩の層が確認できます。これはアグルチネートと呼ばれており、火口から噴出した大きく重い岩などが火口周辺に降り積もり、軽く小さい物は火口から遠くに飛ばされて降り積もって冷え固まったものです。

このようなつくりの火山を火砕丘といいます。韓国岳は少なくとも3回、このような噴火によって形づくられた山であることが分かっています。また、吹き飛ばされた山体の土砂はえびの高原に流れ落ち、他の火山の噴出物とともにえびの高原に湿地帯をつくりました。国指定天然記念物であるノカイドウの自生地は、このような火山活動によってできたのです。

ジオパーク発掘調査隊は今回で



終わりますが、霧島にはまだまだ紹介しきれないほどの魅力がたくさんあります。霧島ジオパークは「自然の多様性とそれを育む火山活動」をテーマとして、霧島や加久藤カルデラの魅力を発信し、皆様とともにジオパークを通じての教育や観光、防災への取り組みを今後も推進してまいります。